

ID// タイトル// セナプロ

本文は測定に不要な記号等は抜き取って掲載しています。長文もしくは多量の場合は掲載されない箇所があります。

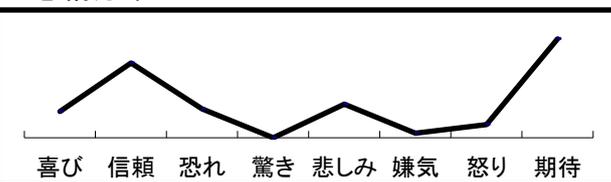
■自動抽出要約文 — キーセンテンス

80年から90年にかけて、最も強い印象を与えたドライバーといえばやはり、アイルトンセナとアランプロストであろう。自分の前を走る人間を見たくない、という気迫と一体化したマシンは、他のドライバーの存在をかすませ、独走し続けた。マシンではなく、ドライバーが見せる動き、意地を張ったバトル、危険を冒しながらの追い抜き、宙に浮くようなクラッシュやスピンなどを見たいのである。93年のプロストの引退と同時に、セナもまたF1から、いやこの世からも永久に引退してしまった。セナとプロストの時代は終わったが、違うドライバーが繰り広げる、違う闘志のぶつかり合いもまた、必ず楽しませてくれるものであろう。

■文章に現れたキーワード群

アイルトンセナ アランプロスト ドライバー マシン
見る 見せる

■感情分布



— 本文 —

世界を舞台に繰り広げられているモータースポーツの中に、F1がある。

これは、1950年から始まったとされ、これまでに数々の名ドライバーを誕生させてきた。

そして、80年から90年にかけて、最も強い印象を与えたドライバーといえばやはり、アイルトンセナとアランプロストであろう。

彼らは、熾烈なまでの闘いを見せ続けてくれた。

2人の闘志は、世界16カ国あるサーキットのどこでも目にする事ができたが、87年からの日本の鈴鹿では、より異様なまでの執念を見せてくれた。

1988年、鈴鹿にて熾烈な闘いが始まる。

ポールポジションからのセナがスタート直後に突然のストール。

プロストに大きく離される。

ところが、その後のセナの追い上げは目を疑うほどのすごく、20周目にしてプロストを捕らえ、素早く背後に付いた。

そこから時速300キロものスピードで、タイヤギリギリのところまで寄せ、直ぐ様抜き去り、逆転優勝を遂げた。

互いのレース、勝利にかける雄姿は他に例を見ず、トップというポジションで激しさだけが増した。

そして、自分の前を走る人間を見たくない、という気迫と一体化したマシンは、他のドライバーの存在をかすませ、独走し続けた。人間のやることには、ある程度の限界があるものだが、それを強靱なまでの意志と、計り知れない努力で打ち破り、常に頂点を求め続け、手に入れてきたのがアイルトンセナであった。

F1自体が非現実的であるので、たとえ最新型のマシンが速くサーキットを駆けたとしても、それだけでは観衆は熱狂しないだろう。やはり、マシンではなく、ドライバーが見せる動き、意地を張ったバトル、危険を冒しながらの追い抜き、宙に浮くようなクラッシュやスピンなどを見たいのである。

そして、それにずっと応えてくれたのがセナであり、プロストであった。

しかし、93年のプロストの引退と同時に、セナもまたF1から、いやこの世からも永久に引退してしまった。

生涯かけて得るところを早くに得たゆえの結果なのか、定められた運命が存在しているのだろうか。

以前にスポーツをし、勝つことだけを考え、練習に励んでいた者として、セナのひたむきな姿勢と、まっすぐな心には深く感動させられた。誰もが忘れがちで失い易いものを、どんな状態でも持ち続け、最上級の技術を駆使し、十分に見せてくれたところに世界中の人々は魅了されたのだろう。

全身全霊で、一瞬の気も許されない中でのドライバーが操るマシン捌きは、とても見応えのあるものである。

セナとプロストの時代は終わったが、違うドライバーが繰り広げる、違う闘志のぶつかり合いもまた、必ず楽しませてくれるものであろう。生で見る価値のあるスポーツだと信じている。



キーワード群を中心に、下記の文章の順番で自動抽出され、上位5文章を自動抽出要約文としています。

やはり、マシンではなく、ドライバーが見せる動き、意地を張ったバトル、危険を冒しながらの追い抜き、宙に浮くようなクラッシュやスピンなどを見たいのである。

そして、80年から90年にかけて、最も強い印象を与えたドライバーといえばやはり、アイルトンセナとアランプロストであろう。

セナとプロストの時代は終わったが、違うドライバーが繰り広げる、違う闘志のぶつかり合いもまた、必ず楽しませてくれるものであろう。

そして、自分の前を走る人間を見たくない、という気迫と一体化したマシンは、他のドライバーの存在をかすませ、独走し続けた。

しかし、93年のプロストの引退と同時に、セナもまたF1から、いやこの世からも永久に引退してしまった。

そして、それにずっと応えてくれたのがセナであり、プロストであった。

ところが、その後のセナの追い上げは目を疑うほどのすごく、20周目にしてプロストを捕らえ、素早く背後に付いた。

ポールポジションからのセナがスタート直後に突然のストール。

プロストに大きく離される。

生で見る価値のあるスポーツだと信じている。

2人の闘志は、世界16カ国あるサーキットのどこでも目にする事ができたが、87年からの日本の鈴鹿では、より異様なまでの執念を見せてくれた。

以前にスポーツをし、勝つことだけを考え、練習に励んでいた者として、セナのひたむきな姿勢と、まっすぐな心には深く感動させられた。人間のやることには、ある程度の限界があるものだが、それを強靱なまでの意志と、計り知れない努力で打ち破り、常に頂点を求め続け、手に入れてきたのがアイルトンセナであった。

全身全霊で、一瞬の気も許されない中でのドライバーが操るマシン捌きは、とても見応えのあるものである。

互いのレース、勝利にかける雄姿は他に例を見ず、トップというポジションで激しさだけが増した。

F1自体が非現実的であるので、たとえ最新型のマシンが速くサーキットを駆けたとしても、それだけでは観衆は熱狂しないだろう。誰もが忘れがちで失い易いものを、どんな状態でも持ち続け、最上級の技術を駆使し、十分に見せてくれたところに世界中の人々は魅了されたのだろう。

1988年、鈴鹿にて熾烈な闘いが始まる。

彼らは、熾烈なまでの闘いを見せ続けてくれた。

世界を舞台に繰り広げられているモータースポーツの中に、F1がある。

生涯かけて得るところを早くに得たゆえの結果なのか、定められた運命が存在しているのだろうか。

これは、1950年から始まったとされ、これまでに数々の名ドライバーを誕生させてきた。